

# 『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本の伝播状況

屈 豎 萌

## Spread of Chinese Translation of *Toto-Chan: The Little Girl at the Window*

QU Shumeng

This paper focuses on the propagation of the Chinese translation of *Toto-Chan: The Little Girl at the Window*. The results show that both mainland China and Taiwan tend to emphasize the educational aspect of *Toto-Chan: The Little Girl at the Window* and at the same time accept it as literature for children. In mainland China, four translations of *Toto-Chan: The Little Girl at the Window* were already published in 1983, and with the success of the publishing project and the education of the children since 1999, it became even more popular in the early 21st century, resulting in the “Toto-Chan Boom”. In Taiwan, however, the “Totto-chan” reading boom has continued from the 1980s to the present. Furthermore, both the mainland and Taiwan have incorporated *Toto-Chan: The Little Girl at the Window* into their education systems, but the mainland has adopted it as an extracurricular book, while Taiwan has adopted it as a national language textbook.

Keyword: Reception, Toto-Chan Boom, trends for children, educational benefits

キーワード：受容、トットちゃんブーム、児童向けの傾向、教育的効果

### はじめに

黒柳徹子<sup>1)</sup>は『窓ぎわのトットちゃん』、『小さいときから考えてきたこと』などの「トットちゃん」シリーズ<sup>2)</sup>を書いた。そのうち、『窓ぎわのトットちゃん』は日本での「戦後ベストセラー」<sup>3)</sup>であり、教育

- 
- 1) 黒柳徹子（1933-現在）は東京に生まれた。日本の女優、タレント、声優、司会者、エッセイスト、ユニセフ親善大使、平和運動家として活躍している。
  - 2) 作家としての黒柳徹子は、『窓際のトットちゃん』、『トットチャンネル』、『トットのピクチャー・ブック』、『アフリカのトットちゃん—救え、アフリカの友たち』、『トットの動物劇場』、『トットちゃんとトットちゃんたち』、『小さいときから考えてきたこと』などのトットちゃんシリーズを創作した。
  - 3) 孫雅甜、「800万人が理想の教育に感動！—なぜ読まれる『窓ぎわのトットちゃん』」（『人民中国』、巻744、2015年）、62-65頁

出版社の小学校国語教科書にも登場した作品である<sup>4)</sup>。世界での反響が最も高く、20世紀に深い影響を与えていた本と言われている<sup>5)</sup>。現在、『窓ぎわのトットちゃん』は欧米、アジア圏を問わず世界の多くの国々で翻訳され、それぞれの地域で一定の支持を得ている。本稿では新聞、雑誌などのメディアに掲載されたものや学術論文などから、日本における『窓ぎわのトットちゃん』の伝播、世界での翻訳状況の調査を踏まえた上で、『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳の伝播、反響などを中心に考察する。上述した調査を通じて、原作及び中国語訳本をより深く理解することができ、更に『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳の受け入れ状況、影響などが把握できると考えられる。

### 一 『窓ぎわのトットちゃん』の原作について

『窓ぎわのトットちゃん』は黒柳徹子によって書かれた自伝的な物語である。その原型は、刊行の20年ほど前、黒柳徹子が「婦人公論」誌にトモエ学園での体験をつづったエッセイである。また、1979年から講談社の月刊誌「若い女性」に2年にわたって連載したものを、『窓ぎわのトットちゃん』として一冊にまとめた。小説本文の61章とあとがきから構成され、トモエ学園の教師と生徒たちの学校生活を中心に、「トットちゃん」のほかにも、多くの発達障害の傾向を持つ子供たちが電車の教室で楽しく勉強する物語である。

1981年3月に初版第一刷が発行され、その同年の12月のルビつき版が出てきた。さらに、1984年の文庫版、2006年の新装版、2014年の絵本版、2017年の電子書籍版が次々と発売されている。著者が『窓ぎわのトットちゃん』を書いた当初に、保護者や教育関係者にヒントを与えようとしていたが、しかし次第に、読書層がだんだん広くなり、大人だけではなく、子供も自分が読む本として受け入れるようになった。その後、日本では「戦後ベストセラー」としての地位を確立した。ではなぜ「戦後ベストセラー」という地位を確立したのだろうか。それは出版企画の以外、当時の日本の社会教育背景と深く関わっている可能性がある。その理由として以下のようなことになる。

まずは、日本の社会教育問題が頻発し、伝統的な教育制度から新しい教育制度への転換が急務となった時期で、『窓ぎわのトットちゃん』の出版は当時の日本教育界に啓示を与えたからである。原作の最後に「一九八一年。一中学の卒業式に、先生に暴力をふるう子がいるといけない、ということで、警察官が学校に入る、というニュースのあった日。」と書いている。この言葉は短いものであるが、『窓ぎわのトットちゃん』を出版した当時の教育背景の一角を表していると言えるだろう。レオナルド・ジョッパ(2009)は、日本では70年代後半から学校における校内暴力が社会問題化したという。また80年代に入り、「いじめ」、「自殺」、「不登校」、「教師の体罰」のような新たな問題が出てきた。このように従来の「競争的な試験システム」から「生徒の自主性や創造力」を重視する教育環境への転換が必要であると主張している<sup>6)</sup>。『窓ぎわのトットちゃん』の出版時期を振り返ってみると、日本の社会教育問題が頻発し

4) 「文部省検定課長「国民感情に即し」(『朝日新聞』、1982年6月26日)。

5) 孫月沐『中国最具影响力的300本书』、中国对外翻译出版公司、2009年。

6) レオナルド・ジョッパ著(丸山和昭訳)「日本の教育改革—近年の改革運動における目標と帰結」(『世界から見た日

た80年代には、『窓ぎわのトットちゃん』の自由自在な教育環境や優れた教育理念は当時の日本教育界に新しい啓発を提供したと言えるだろう。

また、『窓ぎわのトットちゃん』の教育理念は80年代の教育者たちに啓示を与えただけでなく、現代の教育者たちが目指すべき目標でもあり、教育の発展に活力を注ぎ込んだことが挙げられる。田島毓堂(2003)<sup>7)</sup>は「本書が世に迎えられたことは、何よりもその内容の魅力、就中、トモエ学園を創設し、ユニークな教育理念によっていわば現在でいえば「落ちこぼれ」とか「問題児」の教育に情熱を傾けた小林宗作氏の教育に対する社会的共感を呼んだことである。そのことを世に知らせたのは、軽妙な語り口で、現在にマスコミ界で活躍している黒柳徹子氏の飾らぬ、わかりやすい文書にあったことはいまでもなく。何よりも、広い読者層それを示している。」と述べる。森透(2006)<sup>8)</sup>は『窓ぎわのトットちゃん』の教育実践を考察し、戦争の時代に、子どもの個性や人権を尊重し、「きみは本当はいい子なんだよ」とい続けた小生の生きざまは、今の教師たちに大きな感動と展望を与えていると指摘した。和田幸子(2018)<sup>9)</sup>は『窓ぎわのトットちゃん』に登場する子供の立場、先生の立場、両親の立場、それぞれの心情を慮り、自分の身に置き換えて考え、その出来事の意味を深く考えていたと言及した。

上述したように、『窓ぎわのトットちゃん』には伝統的な教育制度の不足しているところも描がかれているが、欠けている教師から生徒への個性や創造性の尊重も描がかれている。『窓ぎわのトットちゃん』はトモエ学園で「トットちゃん」のほかにもいた、多くの発達障害の傾向を持つ子供たちの物語であり、自由で多様な教育環境を示しているだけでなく、子供の個性への理解と発達障害を持つ子供に関する教育実践や新しい教育理念も含めて提示している。従って、『窓ぎわのトットちゃん』は当時の日本の教育環境の縮図とも言えるし、日本の新旧の教育理念のぶつかり合いとも言える。『窓ぎわのトットちゃん』の普及に伴い、日本伝統的な教育制度から新しい教育制度への転換を促したとは言えないが、日本の教育界は伝統教育制度の不足をある程度認識したと言えるだろう。これも「戦後ベストセラー」になったことと教育の面が強調された重要な理由だと言えるのではないだろうか。さらに、本書は世界各国で強い共感を呼んでいて、日本でベストセラーになっただけでなく、世界にも幅広く伝播し、翻訳されている。

## 二 世界での翻訳状況

現在に至るまで『窓ぎわのトットちゃん』は35カ国の言語に翻訳されている。具体的な翻訳状況は表1に示している<sup>10)</sup>。表から分かるように、『窓ぎわのトットちゃん』の原作が出版された1980年代には、

---

本の教育』、日本図書センター、2009年)、130-155頁。

7) 田島毓堂「『窓ぎわのトットちゃん』章別語彙の比較研究」(『国際シンポジウム比較語彙研究V』、2004年)、87-112頁。

8) 森透「教育実践史研究ノート(2)―研究方法論的吟味とトモエ学園の事例研究―」(『福井大学教育地域科学部紀要(教育科学)』、2006年)、11-20頁。

9) 和田幸子「保育者養成のための『窓ぎわのトットちゃん』を用いた授業実践」、『京都光華女子こども教育研究第2号』、p83-91、2018年。

10) 訳本が多いため、一つ一つ列挙するのではなく、その一部分だけを取り上げている。

多くの国で翻訳されていたことがわかる。中国語、英語、ロシア語、アラビア語、ベトナム語、ドイツ語、スペイン語、韓国語版など多くの版本がある。そのうち、中国語訳本は中国大陸版（簡体字版）と台湾版（繁体字版）に分けられ、全部で22種類であり、他の言語と比べて最も多く、訳された時期も最も早い。また、時が経つにつれて、同じ言語でも異なる訳者によって翻訳された場合も多くある。

表1 訳本の概況

版本	作者	書名	出版年	出版社
原作	黒柳徹子	『窓ぎわのトットちゃん』	1981	講談社
中国語	1 未申	『窗旁的小豆豆』	1983.5	中国展望出版社
	2 朱濂	『窗边的小姑娘』	1983.7	湖南少年儿童出版社
	3 陳喜儒、徐前	『窗边的阿彻』	1983.9	少年儿童出版社
	4 王克智	『窗旁的小桃桃』	1983.10	遼寧少年儿童出版社
	5 趙玉皎	『窗边的小豆豆』	2003	海南出版社
	6 趙玉皎	『窗边的小豆豆』	2011	海南出版社
	7 趙玉皎	『窗边的小豆豆』（点字）	2011	中国盲文出版社
	8 趙玉皎	『窗边的小豆豆』（絵本）	2015	新星出版社
	9 趙玉皎	『窗边的小豆豆』	2018	海南出版社
	10 徐思	『窗邊的小華』	1981.12	鑑賞出版社
	11 李雀美	『冬冬的學校生活』	1982.10	大佳出版社
	12 朱佩蘭	『愛的教育－小徹的學校生活』	1982.11	自立晚報社
	13 力争	『窗口邊的荳荳』	1983.03	鑑巴出版社
	14 蕭曉	『窗口邊的小豆豆』	1986.09	世茂出版社
	15 朱曉蘭	『窗邊的小荳荳』	1988.07	小暢出版社
	16 朱曉蘭	『窗邊的小荳荳』 注音版	1990	小暢出版社
	17 燕奴	『窗口邊的荳荳』	1990.11	晨星出版社
	18 黃靖淑	『窗邊的小豆豆』	1992.03	漢風出版社
	19 李朝熙	『窗邊的小豆豆』 日中対照	1993.05	鴻儒堂出版社
	20 朱曉蘭	『窗邊的小荳荳』 注音版	2002	新潮社
	21 王蘊潔	『窗邊的小荳荳』	2015	親子天下出版社
	22 林真美	『窗邊的小荳荳』 絵本版	2015	親子天下出版社
英語	1 Dorothy Britton	<i>Totto-chan / the little girl at the window</i>	1982.6	Kodansha
	2 Dorothy Britton	<i>Totto-chan /the little girl at the window</i>	1982	Kodansha International
	3 Dorothy Britton	<i>Totto-chan: the little girl at the window</i>	1984.4	Kodansha English library
	4 Dorothy Britton	<i>Totto-chan: the little girl at the window</i>	1996	Kodansha International
	5 Dorothy Britton	<i>Totto-chan: the little girl at the window</i>	2011	Kodansha USA
韓国語	1 金蘭周	창가의 토토	2000	프로메테우스출판사
	2 金蘭周	창가의 토토	2005	프로메테우스출판사
インド ネシア語	1 なし	<i>Totto-chan : si gadis kecil di tepi jendela: kisah nyata sebuah sekolah dasar di Tokyo, Jepang, menjelang akhir Perang Dunia II</i>	1985	Pantja Simpati
	2 Kirana, Widya	<i>Totto-chan : gadis cilik di jendela</i>	2008	Gramedia Pustaka Utama
タイ語	Phutsadi Nāwāwīchit	『โต๊ะโต๊ะจั่ง เด็กหญิงข้างหน้าต่าง』	1984	จัดจำหน่ายโดย ดวงกลมสมัยมีสี่
ロシア語	Рисунки В. Брагинского	Тотто-тян, маленькая девочка у окна: повесть: перевод с японского	1988	перевод, Л. Левина
アラビア語	Samnī, 'Alī Ḥasan	توتوش: الفتاة الصغيرة عند الشباك	1988	دار الشروق
フランス語	Magnani, Olivier	<i>Totto-chan : la petite fille à la fenêtre</i>	2006	Press de la Renaissance
マレー語	diterjemahkan oleh Samsuddin Jaapar	<i>Totto-chan : gadis kecil di tepi jendela</i>	1986	Dewan Bahasa Dan Pustaka

ドイツ語	Relleck, Manfred	<i>Totto-chan</i>	1994	Fischer Taschenbuch Verlag
タガログ語	isinalin ni Rosario Torres-Yu	<i>Totto-chan: Ang Batang Babae sa Bintana</i>	1990	Daido Life Foundation
スペイン語	Matsunami Sumiko	<i>Totto chan: la niña asomada a la ventana</i>	2011	Sociedad Hispanica del Japon
ベトナム語	1 Phí Văn Gùng, Phạm Duy Trọng	Tôt-tô-chan, cô bé bên cửa sổ	1989	Nhà xuất bản kim đồng
	2 Trương Thùy Lan dịch	Totto-chan bên cửa sổ	2011	Nhà xuất bản hội nhà văn

筆者はできる限りに世界各国における『窓ぎわのトットちゃん』の訳本に関する資料を網羅した。まずはタイ語に関する情報を挙げる。1984年に『窓ぎわのトットちゃん』のタイ語の初版が出版された。6版を重ねて3万6000部であり、バンコクの有名書店の副支配人が「日本ものでは珍しいロングセラーだ」と紹介した<sup>11)</sup>。また、平松秀樹(2011)<sup>12)</sup>によると、日本文学が初めて一般人の耳目に達したのは1984年の『窓ぎわのトットちゃん』の翻訳であり、児童文学ブーム期と言われる火付け役となったものである。これは紛れもなく、日本の児童文学として受容され、読まれてきたのである。80年代における日本から世界への輸入品としての「おしん」と並ぶ二大作品に数えられ、今に至るまで人気があると指摘した。更に、宇江清治(2015)<sup>13)</sup>によると、1980年代後半から2000年まではタイは児童文学の翻訳が盛んになった時期であるため、日本の児童文学に注目が集まり、次々と出版された。その中で1984年のプッサディー、ナーワーウィチット訳の『窓ぎわのトットちゃん』は予想以上にヒットし、その後続く児童文学ブームの先駆けとなったとも言及した。

タイ語の以外、他の言語の訳本に関する情報も見られる。例えば、韓国では2000年代に韓国で最も売れた日本小説は村上春樹の『ノルウェイの森』、江国香織・辻仁成の『冷静と情熱のあいだ』の以外、黒柳徹子の『窓ぎわのトットちゃん』が挙げられるという<sup>14)</sup>。また、朝日新聞によると、ソ連(当時)では1988年に『窓ぎわのトットちゃん』を子供向けの本として出版することになった。最初の発行部数は10万部であった<sup>15)</sup>。最後に、1989年にアラビア語の初版が出版され、読者からの反響が高く静かなベストセラーになった<sup>16)</sup>。

全ての訳本の情報ではないが、世界における『窓ぎわのトットちゃん』の翻訳や受け入れ状況などの面がある程度、わかるようになったのではないだろうか。例えば、上に挙げた「日本ものでは珍しいロングセラーだ」、「児童文学ブームの先駆けとなった」、「最初の発行部数は10万部だ」、「2000年代に韓国で最も売れた日本小説」、「静かなベストセラー」などのような言葉には、ある程度は目標言語国での『窓ぎわのトットちゃん』外国語訳本の発行状況や売れ行きの良い面が反映されていると言えるだろう。また、既に述べたように著者が本書を執筆した初期の目標はその教育の面に傾いていたが、受け入れ側としての各国は日本の「児童文学」として広く受け入れる傾向が見られ、その反響も高い。また、『窓ぎわのトットちゃん』は日本でベストセラーになっただけでなく、世界にも幅広く伝播していたといえる

11) 藤森貞晴「日本語熱(微笑みの陰・日タイ修好100年の現実:5)」(『朝日新聞』、1987年8月7日)、10頁。

12) 平松秀樹「東南アジアにおける日本文学」(『越境する言の葉—世界と出会う日本文学』、2011年)、51-59頁。

13) 宇江清治「タイにおける日本文学翻訳過去と現在」(東京外国語大学『日本研究教育年報19』、2015年)、191-197頁。

14) 日本貿易振興機構(ジャトロ)海外調査部「韓国における日本書籍市場」、2012年。

15) 『窓ぎわのトットちゃん』ソ連版、63年に出版(『朝日新聞』、1987年6月13日)、10頁。

16) 「トットちゃん中東へ(NEXT・WEEK)」(『朝日新聞』、1989年6月24日)、16頁。

だろう。つまり、『窓ぎわのトットちゃん』は物語性と教育性を兼ね備えているからこそ、世界各国で強い共感を呼んでいて、広い読者層を獲得し、長年にわたって幅広く流行しているといえよう。さらに、『窓ぎわのトットちゃん』が世界で無視できない地位と影響力を持っている文学としての面も反映されていると考えられる。

### 三 『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本の伝播と影響

以上のように、本稿では日本における『窓ぎわのトットちゃん』の伝播、世界での翻訳状況の調査を踏まえた上で、『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳の伝播、反響などの考察を行う。すでに述べたように『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本全部で22種類ある。そのうち、趙玉皎訳と朱曉蘭訳の改訂版を除いて、他の中国語版はすべて異なる訳者によって翻訳された。形式が豊富であり、絵本版、ピンイン版、日中対照版、点字版があり、様々な読者層に配慮した工夫が見られる。

また、それぞれの訳本では、訳者の序文、校訳者の序文や編集の説明の中で、ほとんどが『窓ぎわのトットちゃん』の「因材施教、有教無類」の特性に言及し、同時に『窓ぎわのトットちゃん』は単純に生き生きした児童の物語と見なすことはできなく、児童の心理を理解するための良い本でもあり、すべての教育従事者の参考の手本になるべきだという。また、本書を読んだ後、今の教育はどうあるべきか、読者に更に真剣に考えてほしいと述べられている。つまり、『窓ぎわのトットちゃん』の出版と翻訳の前に、それぞれの出版社と訳者は、この本のストーリーの生き生きとした面を認めると同時に、中国語の読者が本書の中に教育の真の意味を見いだすことを期待していると強調している傾向が見られる。では、中国語訳がどのように伝えられ、どのように読者に受け入れられたのだろうか。それは以下のようになる。

#### 1 大陸における『窓ぎわのトットちゃん』の伝播

##### (1) 『窓ぎわのトットちゃん』の伝播

中国大陸版は1983年に4つの訳本が出版された後、2003年の趙玉皎訳が出版されるまで他の訳本はなかった。現在まで確認できる訳本は9種類ある。1983年にそのうちの4つの訳本が一気に出てきたが、著作権の関係で現在ではもう印刷されていない。

蘇黎 (1982)<sup>17)</sup> は『訳林』で『『窗边的小姑娘』在日本大受欢迎』というテーマで評論を發表した。その中で『窓ぎわのトットちゃん』は優れた教育実践記録と、豊かな教師像を作り、子供の視点から見る社会を描写し、共感を呼んだという。また、周曉 (1983)<sup>18)</sup>、陳喜儒 (1986)<sup>19)</sup>、蔣風 (1995)<sup>20)</sup> によると、『窓ぎわのトットちゃん』が分かりやすい言葉で書かれ、その優れた教育理念と物語の面白さが多くの読者に愛読された理由だと述べている。

17) 蘇黎「『窗边的小姑娘』在日本大受欢迎」(『訳林』、訳林出版社、第3期、1982年)、279頁。

18) 周曉『周曉评论选』、少年儿童出版社、1983年、P222。

19) 陳喜儒「黑柳柳子の启示」(『日本文学』、吉林出版社、第1期、1986年)、228-233頁。

20) 蔣風「中日儿童文学交流史的回顾及前瞻」(『文科教学』、1995年)、13-30頁。

また、朝日新聞によると、当時の中国には、少年児童図書専門の出版社は26社があるが、日本の児童文学として紹介されているのは、川端康成の少数の作品以外は、『窓ぎわのトットちゃん』のみであり、ほかの目立った出版の動きはなかったという<sup>21)</sup>。その次、工藤茂（1997）<sup>22)</sup>は『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳本は、当時の中国人は波瀾に富む面白さがなければ読まない、人気のある作家の作品に注目するなどの背景がある中で翻訳されたと言及した。さらに、王向遠（2003）<sup>23)</sup>によると、中国80年代から90年代にかけて日本児童文学翻訳の特徴は名作を重視することであった。しかも近代作家の作品の少数を翻訳することの以外、ほとんどは現代の名作である。しかし、そのうち、黒柳徹子は例外であり、本来にはプロの作家ではなく、有名俳優やテレビ番組の司会者だったが、彼女の半自伝的作品の『窓ぎわのトットちゃん』は1982年から1983年まで、4つの異なる中国語訳本が出版されたと指摘した。

一方、現在中国大陸の市場で流通しているのは趙玉皎訳だけである。2003年に初版が出版されてから、2011年、2018年の改定版も出された。更に2011年の点字版と2015年の絵本版も出版された。2021年現在までで1450万部<sup>24)</sup>であった。趙玉皎訳の『窓ぎわのトットちゃん』は中国大陸の少年児童書類で最も価値がある図書と言われている<sup>25)</sup>。では、なぜ『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳本の発行量が多いのだろうか。また少年児童書類の中で、最も価値がある図書だといえるのだろうか。その理由として以下の四つが挙げられる。

第一に、『窓ぎわのトットちゃん』が子供と保護者にとって良い書籍であると考えられる。中国図書商報（2004）は当時売れ行きが良かった『クオーレ』と『窓ぎわのトットちゃん』の内容について「“情感教育”和“素质教育”相呼应。」と述べた。更に「第一、都是从孩子的眼睛看世界，从孩子的角度叙述故事，理解世界。第二，都是通过故事讲述了有别于传统教育的新教育方法。」と説明した<sup>26)</sup>。「素质教育」については中国大陸の教育改革と素质教育に関する決定の中で、改革開放以来、教育事業の改革は大きな成果を収めたが、新しい情勢に直面し、教育体制、教育内容や教育方法などは相対的に遅れて、青少年の全面的な発展に影響し、国民の素質を高める必要に適應できないため、素质教育の改革を推進する必要があった。学生の心身の成長の特徴を尊重し、学生は生き生きとした発展を求めているのだと記述した<sup>27)</sup>。簡単に言えば、素质教育は子供の個性への理解と心身発達調和を求めていると言える。上述したように、『窓ぎわのトットちゃん』の内容が「“情感教育”和“素质教育”相呼应。」と述べた背景は中国大陸の教育改革と深く関わっていると見えよう。既に述べたように、『窓ぎわのトットちゃん』の中に満ちている子供への愛、賛美、尊重が中国大陸現代教育者への要求でもあり、保護者や教育者は本書の中から新しい教育方法と考え方を発掘した。その教育方法は中国大陸の素质教育の本質に適應し、啓発を与

21) 「東安駅事件、中国の子にも知って欲しい翻訳、月内にも出版」（『朝日新聞』、1986年11月19日）、22頁。

22) 工藤茂「中国における日本文学の受容」（別府大学『アジア歴史文化研究所報、第5号』、1986年）、39-54頁。

23) 王向遠『二十世纪中国的日本翻译文学』、北京師範大学出版社、2001年。

24) 久田貴志子「『窓ぎわのトットちゃん』1981年刊・黒柳徹子 学校の教育のあり方」（『朝日新聞』、2021年6月2日）。

25) 孫月沐『30年中国畅销书史』、中国对外翻译出版公司、2009年、235-236頁。

26) 北京開卷図書市場研究所月報分析項目組「排行榜結構穩定 新書值得期待 2004年5月少兒類暢書排行榜分析」（『中國圖書商報』、第16版、2004年）。

27) 中華人名共和國國務院辦公廳『中華人民共和國國務院公報』（第21号、1999年）。

えていたと言えるのではないだろうか。

第二に、『窓ぎわのトットちゃん』が文学性と物語性を兼ね備えた文学であることが挙げられる。例えば、単定平 (2018)<sup>28)</sup> は『窓ぎわのトットちゃん』中国訳本が長年にわたって売れ続ける理由として、原作内容の「経典的文学性」と「有趣的児童性」とに言及した。その中で、「経典的文学性」とは正しい社会価値観を伝えていることと教育理念を有していることを指している。一方、「有趣的児童性」は主に面白い、分かりやすい物語であることを指している。つまり、『窓ぎわのトットちゃん』は子供の視点から見つめた世界を描写する特徴があり、同時に物語を通じて世界に新しい育て方を送り出したという面も備えていると言えるだろう。

第三に、中国大陸の教育部が『窓ぎわのトットちゃん』が小学校三、四年生の必読図書として推薦したことが挙げられる。2020年、中国大陸の教育部ははじめて小中学校の学生が読むべき本のリストを発表した<sup>29)</sup>。そのうち、小学三、四年生の必読文学作品においては中国本国の作家の作品を除いて、外国文学は三つしかない。そのうち、19世紀後半の作品の『クオーレ』、20世紀50年代の『シャーロットのおくりもの』以外、入選した20世紀80年代以降の外国文学は『窓ぎわのトットちゃん』だけである。また、必読図書を選択する基準について、①方向性—正しい政治志向と価値観、②代表性—歴史的な選択を経て、より高い思想的価値、文化的価値や科学的価値などを持つ代表的なもの、③適応性—選択されたものは青少年の認知のレベルに合致すること、④基礎性—慎重に選び、量が少なく質が良いもの、⑤全面性—多学科、多分野、多題材であること、⑥開放性—時代に合わせて、必読書のリストを調整することという六つの面が挙げられている<sup>30)</sup>。その基準から見ると、中国大陸教育部による小学生の必読図書の選択は非常に厳しいが、それでも『窓ぎわのトットちゃん』を選ばれていることが、本書の価値を表していると言えるだろう。すなわち、『窓ぎわのトットちゃん』は上述した六つの特徴を備える文学であるとも言えるだろう。

第四に、『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本は大陸の児童書部門でずっと上位ランキングであることが挙げられている。諸葛蔚東 (2020) によると、『窓ぎわのトットちゃん』は10年にわたって児童書の売り上げランキング代表であり、2017年と2019年には児童書部門の一位だったという<sup>31)</sup>。沈利娜 (2020)<sup>32)</sup> は『窓ぎわのトットちゃん』、『シャーロットのおくりもの』、『王子様』はいずれも児童図書市場の「常緑樹」で、長期にわたってベストセラーランキングであり、長年週間ランキング1位を獲得し、二三百回を数える。そのうち、『窓ぎわのトットちゃん』が週間ランキング1位を獲得したのは305週である。

従って、上述した四つの面からわかるように、中国大陸では社会メディアでも、一般的学者でも『窓ぎわのトットちゃん』は少年児童書類の最も教育的価値がある書籍の一つだと考えられている。それ以

28) 単定平、張文紅「我国少儿类畅销书的规律分析—基于近两年开卷少儿类畅销书排行榜数据」(『出版广角』、第320期、2018年)、32-34頁。

29) [http://www.moe.gov.cn/jyb\\_xwfb/gzdt\\_gzdt/s5987/202004/W020200422556593462993.pdf](http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/gzdt_gzdt/s5987/202004/W020200422556593462993.pdf)

30) [http://www.moe.gov.cn/jyb\\_xwfb/s271/202004/t20200422\\_445607.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s271/202004/t20200422_445607.html)

31) 諸葛蔚東、周一心、馬晨一「中国引进日本儿童书的现状与启示 (2010-2019)」(『出版科学』、第五期、2020年) 105-111頁。

32) 沈利娜「严寒过后还是春—从国际合作看疫情后的中国少儿出版」(『出版广角』、第7期、2020年)、14-17頁。

外、市場の反応には同じことが見られる。また、中国大陸の教育部が外国文学の必読書の選択をすることは非常に厳しいと言えるが、それでも『窓ぎわのトットちゃん』は必読書として選ばれた。つまり、教育部も『窓ぎわのトットちゃん』の導入は子供をより良い方向に導く価値があることと考えていると言えるだろう。

## （2）大陸における「トモエ学園」の実践

「トモエ学園」は『窓ぎわのトットちゃん』に出てくる学校の名前である。戦前の昭和期に実在した学校であり、「トモエ学園」とは通称で、正式名は自由が丘学園と称し、幼稚園・小学校併設の私立学校である<sup>33)</sup>。当時の「トモエ学園」では、自由度の高い教育実践が行われていた<sup>34)</sup>。黒柳徹子の『窓ぎわのトットちゃん』によって幅広く知られた。原作の「リトミック」の章に「学校の「トモエ」というのは、白と黒から出来ている紋所の一種の二つのトモエで子供達の心身両面の発達と調和をねがう」という説明がある。それで、現在では「トモエ学園」は優れた教育理念を代表している言葉でもある。

筆者の調査によると、現在中国大陸には原作と同名の「巴学園」がたくさんあり、その中で最も有名なのが「芭学園」である。「芭学園」の創始者である李躍兒によると、彼女は元々高校の教師であり、子供の成績に過度に関心を持ち、子供の快樂成長をおろそかにする伝統教育の特性を深く体得した。また、80年代の『訳林』から『窓ぎわのトットちゃん』についての話を読み、日本の「巴学園」にあこがれていたと言及した。そのあと、2003の重訳の『窓ぎわのトットちゃん』の出版をすることに伴って、「トモエ学園」が再びに読者に知られる。そして、李躍兒は2004年に北京で「李躍兒芭学園」を創立した<sup>35)</sup>。つまり、「李躍兒芭学園」は巴学園をモデルにして作ったと言えるだろう。学校は児童の心身の調和を重視し、楽しく成長することを期待している。また、李躍兒によって書かれた『把幸福还给孩子』と『谁拿走了孩子的幸福』などの教育書は中国における『窓ぎわのトットちゃん』の実現と言われている<sup>36)</sup>。言い換えれば、『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳を通じて、「トモエ学園」という言葉の背後にある教育理念も同じように読者に伝えていたと言えるだろう。

上述したように、『窓ぎわのトットちゃん』が中国大陸に輸入された初期の80年代に人気のある作家の「児童文学」として受け入れられる傾向が見られる。また、80年代の四つの訳本に関して、その販売状況や読者層などを説明する具体的なデータを見つけれられてはいないが、日本の名作を重視していた80年代においては一年間で『窓ぎわのトットちゃん』の4つの訳本が出版されることから見ると、『窓ぎわのトットちゃん』の内容の魅力およびその影響力が反映されていると考えられる。また、『窓ぎわのトットちゃん』は日本に大きな影響を与えていただけではなく、中国も震撼させたといえよう。一方、2003年の趙玉皎訳は21世紀の中国大陸に大きな「トットちゃんブーム」を巻き起こした。田雁（2018年）によると、同じ作品が時代によって異なる境遇にあるのは、外国文学も同様で、作家の執筆した作品における

33) 森透「教育実践史研究ノート（2）—研究方法論的吟味とトモエ学園の事例研究—」（『福井大学教育地域科学部紀要（教育科学）』、2006年）、11-20頁。

34) 深谷和子「黒柳徹子著 窓ぎわのトットちゃん」（『児童心理』、2018年2月）、117-120頁。

35) 趙立「李跃儿：她办了一所巴学园」（『人物』、2008年）。

36) 『谁拿走了孩子的幸福』の扉によると、「『窗边的小豆豆』在中国最生动的实践」と書いている。

社会的背景と、時代ごとの人々の共感性の差異も関係している。『窓ぎわのトットちゃん』は21世紀の初めに中国の読者の広範な認めを得たのは、翻訳の要素と出版社の宣伝のほかに、以前より当時中国大陸の発展と日本経済の発展速度が近づき、日本文学作品に共鳴しやすくなったと言及した<sup>37)</sup>。

上述したように、1999年の素質教育の普及に伴い、保護者と学校は素質教育への重視度が高まっており、本書の内容は保護者などのニーズに合致している。さらに、近年、本の装丁や市場宣伝など出版企画への重視度が高まり、企画能力も向上し、出版企画の成功も21世紀の「トットちゃんブーム」になった重要な理由だと考えられる。

## 2 台湾における『窓ぎわのトットちゃん』の伝播

台湾版の訳本は13種類であり、大陸版より多く、1981年から現在まで途切れることがなく訳本が次々と出版されている。現在では、王蘊潔訳と林真美訳の絵本版と新潮社の朱曉蘭訳が台湾の図書市場で流通しているが、他の訳本は著作権の関係で絶版となった。また、台湾における『窓ぎわのトットちゃん』の受容状況に関して以下の三つが挙げられている。

まずは、『窓ぎわのトットちゃん』訳本の伝播に伴い、トットちゃん愛読ブームを巻き起った。林玉萍(2005)によると、2005年の時点で、王蘊潔訳、林真美訳の絵本版の以外の10種類の訳本を整理した。違う訳者によってたくさん翻訳されることによって、『窓ぎわのトットちゃん』愛読ブームが台湾に及んでいることを物語る証拠であると指摘した<sup>38)</sup>。

また、『窓ぎわのトットちゃん』はメディア上の相乗効果で話題作として伝播していた面が明らかになったのである。許均瑞(2003)は金石堂のベストランキングを利用し、台湾出版社側がメディア上の相乗効果と話題作りに取り込むなどの戦略は日本人作家の作品を市場獲得できる重要な条件であり、1990年代台湾訳書市場化の傾向でもあったと述べている。また、『窓ぎわのトットちゃん』シリーズが重版や重訳で1990年代前半広範に名が知られたのはこの傾向を反映したと言及した<sup>39)</sup>。言い換えれば、『窓ぎわのトットちゃん』は90年代のメディア上の相乗効果と話題作であり、台湾でよく知られた本であると言えるだろう。

最後に、『窓ぎわのトットちゃん』は80年代にすでに台湾の小学校教育システムに導入されたことが挙げられる。張桂娥(2002)によると、1994年では台湾小学校国語教科書の中に、八十年代から九十年代台湾でブームを巻き起こした話題作の『窓ぎわのトットちゃん』から三年生向けの「大冒険」と五年生向けの「図書館」が取り上げられて教材化された。また、張は『窓ぎわのトットちゃん』を含めるいくつかの現代日本児童文学作品群は、初めて台湾の小学校教育現場に受容された先駆的な存在であると指摘した<sup>40)</sup>。「大冒険」は主人公の「トットちゃん」と体の不自由な泰明ちゃんの二人がお互いに助け合

37) 田雁「21世紀初日文图书的引进，翻译与出版」(『中国图书商报』、2018年)、31-34頁。

38) 林玉萍「『窗口邊的豆豆』中譯本之詞彙－以第一章到第十章為例」(『台大日本語文研究』、第10期、2005年)、85-106頁。

39) 許均瑞「台湾における日本出版物の消費について：1990年代を中心として台湾出版市場に見られるローカル企業操作のメカニズム」(『大阪大学言語文化学』、2003年)、63-77頁。

40) 張桂娥「台湾小学校国語科実験教材における現代児童文学作品の受容」(『天理台湾学会年報』、第11号、2002年)、75

って、困難を乗り越えた語である。また、「図書館」はトットちゃんたちが電車で作った図書館で楽しい読書時間を過ごした語である。教材化された内容から見ると、台湾の国語編集側は「大冒険」と「図書館」を通じて子供に友情、尊敬、愛、読書の面白さを伝えたいという意図があると言えるのではないだろうか。また、国語教材は学生の最も重要な教育媒体だと考えられる。しかも、『窓ぎわのトットちゃん』が国語教材に選ばれたことは、本書が台湾の小学校教育にとっても教育的効果がある面を反映しているといえよう。

台湾版の各訳本について販売状況は詳しくわからないが、以上の内容を通じて、台湾では『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本は一般人に愛読されただけではなく、小学校国語教科書にも採用され、初めて現在日本児童文学として台湾の小学校教育現場に受容された先駆的な存在であり、90年代に既に「トットちゃんブーム」が巻き起こっていたことがわかる。つまり、翻訳された初期の80年代も現在も『窓ぎわのトットちゃん』愛読ブームが台湾に及んでいると言えるだろう。

### 終わりに

文学作品の出版と受容程度は、作品そのもの以外に多くの要素に影響されている。本稿で出版社の宣伝、出版後の読者の受容、新聞や雑誌などのメディアに掲載されたものなどの側面から、日本における『窓ぎわのトットちゃん』の伝播、世界での伝播状況の調査を踏まえた上で、中国語訳の伝播状況を中心に考察した。

以上の調査によると、『窓ぎわのトットちゃん』外国語訳本の中で、中国語訳本が最も多く、しかも再版され、重訳も絶えない。翻訳された初期の80年代でも重訳された21世紀にも、中国大陸や台湾で一定の影響を及ぼした。そのうち、大陸では『窓ぎわのトットちゃん』は1983年に4つの訳本が既に出てきたが、出版企画の成功及び1999年から素質教育の開始に伴い、21世紀初頭の趙玉皎訳は更に普及し、「トットちゃんブーム」が巻き起こった。しかし、台湾では80年代から現在にわたって継続的に「トットちゃん」愛読ブームである。また、外国文学の必読書目としての推薦、国語教材に入選されたこと、「李躍児芭学園」の実践などのことから『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳が徐々に普及されている面を反映していると考えられる。また、『窓ぎわのトットちゃん』の内容の魅力およびその影響力にも反映されている。さらに、大陸と台湾ともに『窓ぎわのトットちゃん』を重視し、児童向けの図書として広めようとする傾向が見られる。

一方、中国大陸と台湾の相違点として、大陸と台湾は『窓ぎわのトットちゃん』を教育システムに取り入れているが、大陸では課外読書として取り入れているのに対して、台湾では国語教科書に取り入れていることがわかる。さらに、すでに述べたように大陸は必読書の選択基準には方向性や体表性などの六つの面を備えている必要がある。つまり、文学作品としての多様性をより重視している。しかし、台湾の国語教育書の選択内容から見ると、本の中の「友情、尊敬、愛」の伝達をより重視している。すなわち、『窓ぎわのトットちゃん』は上述した全ての特徴を兼ね備えた文学であり、これも本書の価値がある

ところだと考えられる。従って、『窓ぎわのトットちゃん』が世界中に幅広く広がっている要因は、ある程度容易に理解できると言えるだろう。